

議長（黒沢義久君） 次，3番鈴木二郎君の発言を許します。

〔3番 鈴木二郎君登壇〕

3番（鈴木二郎君） 3番鈴木二郎でございます。議長にお許しをいただきましたので，通告順に従い質問してまいります。

まず最初に，駅前周辺開発整備に伴うＪＲ利用促進施策について3点お伺いいたします。

駅周辺地区は，常陸太田市の玄関口として市内外から多くの人が集まる交流拠点であり，幹線道路が交差する要衝でもあります。さらには，市内周遊，観光の出発点として人々の交流施設や観光案内などの情報発信機能や地産品の直売所，コミュニケーション拠点としての機能を有すべき要所であり，町のにぎわい，活性化を推進する上で非常に重要な市のシンボリックな地区であります。このような中において，駅前周辺の整備充実を推進し，観光地としての振興を図ることはＪＲ利用促進に有効であり，市外からの来訪者の増加や市内外の人の交流を促進し，町のにぎわいや元気を創出する上で非常に有効であると考えます。

現在，駅前開発が行われ，その整備充実が図られようとしており，これを機会にＪＲを初め，公共交通機関の利用促進を進めることは必要不可欠であり，大変重要なことではないでしょうか。特にＪＲ水郡線は，日立電鉄路線が廃業となった現在において，常陸太田市への唯一の鉄道路線であり，市内外へのアクセス路線として，人の交流のための路線として非常に重要であり，駅前周辺の開発整備を機会に，常陸太田駅を初め，沿線の河合駅，そして谷河原駅及び周辺のより一層の整備充実が求められているところであります。そこで，次の3点についてお伺いをいたします。

まず，第1点目，常陸太田駅周辺の整備充実についてお伺いいたします。

常陸太田駅周辺は，市の玄関口として多くの人が集まる交流拠点であり，市内周遊，観光の出発点として非常に重要な地域であります。現在進められております駅前開発によって，より一層周辺が整備され利用しやすくなり，駅の機能とサービスの向上，さらには道路の交通渋滞の解消と交通安全の向上が図られるものと確信するところであります。

そこで第1点といたしまして，常陸太田駅周辺の整備充実についてお伺いいたします。まず，駅周辺は，若者からお年寄りまでみんなが集まり，語り合い交流を深め，コミュニケーションや憩いの場所として，さらに，いやしの場所としての機能を有するエリアとして整備し，ＪＲを利用してみたいと思う意識や気持ちを起こさせる雰囲気，環境づくりが大切ではないでしょうか。このような観点での配慮，対応はどのように考えておられるのかお伺いいたします。

2つ目，ＪＲ沿線駅（河合駅，谷河原駅）の整備充実についてお伺いいたします。ＪＲの利用促進と観光来訪者の増加促進を図るためには，市内ＪＲ沿線駅の整備充実を進めることが不可欠と考えます。従来のようにただ単にＪＲを利用し，乗りおりするだけの駅であるとの考え方から大幅に発想の転換を行い，いかに快適に便利に安全・安心して駅を利用していただけるか。また，観光来訪者には再度訪れたいと感じていただけるような駅の環境の整備充実を進めることが重要ではないでしょうか。そこで，沿線駅の課題として3つほど申し上げます。

第1点目，駐車場の整備充実。河合駅，谷河原駅のＪＲ利用者の声，要望として，現在，駅の

近くに駐車場がないため不便である。すなわち家から駅まで行く車を置くところがなく、JRを利用することができない。JRを利用してほしいと言われても困る。このためJRを利用したくても車で目的地まで行ってしまふのが現状であると。また、JRを利用する際に、家族等が車で送迎するについても駐車場がないため、駅前や道路に送迎車があふれ危険であります。特に谷河原駅は道路交差点3差路のあきスペースに送迎車が駐車しており、非常に危険な状況にあります。ぜひ、駐車場を整備してほしいとの要望が多いのが現状であります。

2番目といたしまして、駐輪場の整備と駅舎の整備でございます。河合駅は駐輪場は設置されておりますが、雨よけ等の屋根がないため、自転車が雨ざらしになることから、衣類や荷物、かばん等が濡れてしまいます。さらに、かっぱなどの雨具を着用するにつれても濡れてしまうと。特に雨風の強いときは下着までずぶ濡れとなり、風邪を引いたり気分が悪くなることがあるということでもあります。また、駅舎につきましても、駅舎の周囲の足元に側壁がないため、風雨の強い日には、駅舎の待合室に雨が吹き込み、体が濡れてしまうとのことでもあります。このように駅の駐輪場や駅舎の整備が必要と考えます。

3番目、駅の環境美化と情報発信の充実。JRを快適に楽しく気持ちよく利用していただき、JRを利用してよかったと喜んでいただくためには、あるいはJRを利用してみようと思っただくためには、花壇の整備や植樹、除草等、駅の環境美化を進めていくことも大変重要なことと考えます。また、駅舎に市のイベントやお知らせを掲示し、情報発信基地としての活用を図ることも有効と考えます。

以上、JR沿線駅の整備充実の課題3点についての対応についてお伺いいたします。

3番目、JR利用観光来訪者の利用促進について。

多くの観光客に市内へ来ていただき、JR常陸太田駅を初め、各駅で下車してゆったりのおんびりと観光地や名所史跡を散策巡回し、すばらしい自然や歴史を楽しんでいただくためには、来てよかった、また来てみようと感じてもらえるようなおもてなしの対応施策が必要と考えます。

その具体的な対応策といたしまして、まず1つ目、観光案内の充実。多くの人に観光に来ていただくためには、まず、駅周辺の観光スポットが容易にわかるようにすることが必要であり、そのためにはそれぞれの駅にその地域の観光地、特産品、名所史跡等の案内板を設置するとともに、パンフレット等によるガイド案内を充実させ、市外からの来訪者にも容易にわかりやすくすることが肝要ではないでしょうか。さらに、JRを利用した観光ツアー案内、PRをJRと連携してネット配信やパンフレットにより広報することも必要と考えられます。

2つ目、観光スポット、ルートの開発。駅周辺の観光スポットや観光ルートの開発を図ることも重要なことではないでしょうか。すなわち現有する数多い観光地や名所史跡などの歴史的財産をブラッシュアップして磨き、魅力あるものとしていくことが観光来訪者の増加促進につながるものと思います。

3つ目、観光巡回のための交通サービス。観光来訪者が各駅から観光地や名所旧跡地を巡回するために、駅に中古品、不用品の自転車を整備し、無料で貸し出し、活用していただき、容易に快適に見学できるサービスの提供も観光客への心遣いではないでしょうか。

以上、JR利用観光来訪者の利用促進の3点についてのご見解をお伺いいたします。

次に、大きな2番目でございます。町の活性化に向けての対応施策についてお伺いいたします。

1つ目、町の活力、元気力衰退の現状について申し上げます。

市内名門企業の経営破綻、そして市内に営業拠点を構えていた東電、NTTなどの企業が他市へ移転、さらにはハローワークや保健所等の公共機関も市内から撤退し、町は寂れる一方であります。そしてさらに、消費者の常陸大宮市や那珂市への流失化などにより、市内の空洞化現象は顕在化しつつあります。また、人口や高齢化の状況を見ても、合併時の2004年12月に6万人だった人口は、5年後の2009年には2,500人減の5万7,500人となり、毎年500人減少しております。このまま行きますと、合併10年後の2014年には、6,400人減の5万3,600人まで減少すると予想されているのが現状であります。この原因として、毎年300人の新生児誕生に対し死亡者は700人あり、これだけで毎年400人の人口が減少しております。さらに働く場所、すなわち仕事の関係で人が市内を出ることが多く、新しく入ってくる人は少ないということにあると言われております。特に15歳から29歳の働き盛りの若い人の転出が多い状況にあります。これら人口減少、少子化、高齢化社会の現象は、町が寂れ活力を失い衰退してしまう憂慮すべき状況にあると言えるのではないのでしょうか。高齢化の状況についてはさらに深刻であり、65歳以上の高齢化の比率は年々上昇し、平成17年26.8%から平成19年28%と増加しております。この高齢化がさらに進んだ場合、限界集落となる可能性もあり、町の機能が成り立たなくなるおそれも想定されます。このような状況に対応して、町としての活力、元気、機能を取り戻し、新たな雇用や消費、人の流入や交流等により町の活性化に向けて取り組むことが今の常陸太田市にとって最も求められている大きな課題であろうと思います。

2番目、町としての機能、活力、元気創出の具体策について。

町の活性化に向けての対応施策としまして、常陸太田市の特色である豊かな自然、伝統ある文化や歴史遺産、特産品、名産品を生かし、行政、市民が連携し、協働により進めていくことが重要と考えられます。

その具体策として1つ目、人の交流を促進する道路の整備と郊外型ショッピングセンターの誘致及び農産物直売所の設置等による町の活性化と事業の創出であります。人口の減少や消費者の他市への流出により、町の空洞化現象は顕在化しつつあります。また、歴史ある街並みが続く鯨ヶ丘商店街についても、各種の工夫を凝らした祭りやイベント、そして店づくりなどにより多くの人を訪れ、一時的ににぎわいが見られつつあります。しかし一部の店にとどまり、にぎわいも祭りやイベント時に限られており、日中シャッターがおりたままの店も少なくないよう見受けられます。すなわち点から線、そして面となる持続的なにぎわいをつくり出すことが強く求められているところであります。このような閉塞的な状況を打開していくためには、地元から近隣の市への消費者の流出を阻止し、逆に近隣市からの消費者の流入を促進するとともに、お祭り時に見られるように潜在的に有する地元の消費マインドを掘り起こすことが必要と考えられます。

さらには、豊かな自然や文化歴史遺産、さらには特産品などの観光資源を有しており、これらを有効に生かした観光客の来訪促進のあり方を再検討することも大事なことと思われれます。

改善策の1点目でございますが、道路の整備についてお伺いいたします。

このためには、まず常陸太田への観光やショッピングに人の移動、流入、来訪が容易に可能な環境の整備、すなわち道路の整備を図ることが重要と考えます。ここで近隣からの人の移動、流入のための道路の整備については市内各地域にて鋭意整備されつつありますが、3月28日に開通した木島大橋につきましては、那珂市と常陸太田市を結ぶ交流のかけ橋として、交通アクセスの向上対応としてその効果が期待されているところであります。特に、本市にとっては那珂市や大宮市等への近隣市からの観光、消費者の流入や文化交流の促進を図る上で非常に大きな期待、効果が望まれるところであります。この木島橋の開通による効果をより大きなものとするためには、那珂市側の道路の整備充実が必要ですが、本市としましては、木島橋から市内へアクセスする道路の整備を図ることが非常に重要であると考えられます。すなわち、島町および島町から佐竹南台団地までの道路の拡幅と、南台団地から常陸太田市街への道路の整備がぜひとも必要と考えます。これにより、近隣の人々が常陸太田市内、そして市街への移動、流入が容易となり、町の活性化、にぎわいが促進されるものと思われれます。

次に、大型ショッピングセンターの誘致につきまして申し上げます。

大型ショッピングセンターを誘致し、市内各地域の消費マインドを発掘するとともに、市外への消費者の流出を阻止し、さらに、道路網の整備により近隣市から消費者の流入、交流を図り、消費の拡大につなげていくことが重要であり、誘致を機会として市内事業者がお互いに切磋琢磨し、その相乗効果を鯨ヶ丘商店街へもつなげ、市内全体の活性化に結びつけていくことが期待されるものと考えます。

大型ショッピングセンターの誘致に当たっては、快適に買い物や食事ができる基本的な機能を有すること、安心・安全でゆとりある時間が過ごせるエンターテインメント性を有すること、地域の名産品、特産品等の取り扱い、イベントなどの地域情報の発信基地としてのコミュニティ性、環境を守るエコロジー、地元雇用、地域既存店との連携、協調性など地域との共存、共有を図り、市の発展に寄与できる企業の誘致に留意することが大切であると思えます。

土浦市においても、市全体の活性化を狙いとして5月28日にショッピングセンターがオープンし、消費の拡大、人の交流によるにぎわいの創出、地元雇用の創出、観光誘致など大きな期待が寄せられておるところであります。

次に、農産物直売所の設置についてお伺いいたします。

農産物直売所については、市内に既有直売所もあり、この直売所との調整連携が必要と思われれますが、JR利用の観光来訪者や駅周辺利用者の利便性を考慮し、新たに地域の町のにぎわい、活性化を創生するものとして、地域農業の振興と生産者と消費者を結ぶ交流空間として、さらに地産地消、そして安全・安心や新鮮さを求める消費者の声に応えるとともに、近隣からの消費来訪者や観光来訪者の増加促進策として、JAの協力によります農産物直売所や道の駅等を設置し、おいしく安全・安心な食文化の発信提供基地として取り組むことも重要と考えます。

また、直売所の安定した販売のためには、新鮮で生産者の顔の見えるトレーサビリティの明確な物の年間を通して安定した供給が大切であり、JAの協力により生産者との契約と支援活動

も必要と思います。

以上、町の活性化のための道路の整備、ショッピングセンターの誘致、農産物直売所の設置等の諸施策についてどのようにお考えかご所見をお伺いいたします。

次に、町の活性化のための2番目として、企業の誘致による雇用の創出についてお伺いいたします。

若者定住の促進を図り、人口減少、少子化等の対応施策として、大きな効果が期待される企業の誘致につきましては、鋭意取り組んでおられるところでありますが、現在の非常に厳しい経済情勢にあっては、その成果を得るのは難しいのが現状であろうと考えます。しかしながら、経済情勢が悪いから誘致が困難とあきらめたり手加減しては、経済が好転したからといって活動を開始しても手遅れとなり、企業も応談してこないと思います。逆に、このような経済低迷時に積極的、戦略的に誘致活動を展開し、企業の将来計画、動向等の情報を把握し、経済好転時に備えておくことが重要ではないでしょうか。第5次総合計画の平成23年度までの実施計画の取り組み施策として、戦略的な誘致活動による企業の立地促進、企業誘致の促進強化他が上げられ対応されておりますが、さらに具体的な施策として、地元出身の経営者や常陸太田大使の協力、市内各界有力者による協力、そして市長をトップセールスマンとして市民一人ひとりが常陸太田市をあらゆる機会に市の持つ魅力、特徴、メリット等をPRしていくシティプロモーション事業の展開により取り組むことも必要と考えます。そして最も肝要なことは、説得力と市の姿勢、誠意をいかに示し取り組むことにかかっているのではないのでしょうか。この町の活性化に向けての企業誘致の現状及び今後の対応についてご所見をお伺いいたします。

大きな3番目、小中学生の理科教育支援の取り組みについてお伺いをいたします。

大学入学の理工系減少に見られるように、青少年の理工学離れが顕在化しつつあります。このような憂慮すべき状況に対応して児童生徒に科学する心、理科に対する興味、楽しさを伝え、独創性ある子どもを育成し、小中学校の理数教育を充実させ、科学技術立国の将来を担う人材を育成することは、学校教育にとって大変重要と考えます。この教育実現施策として、理科教育の振興に資する事業を進めていくことが強く望まれているところであります。このような状況の中にあって、常陸太田における理科教育充実に向けての取り組みについて2点お伺いいたします。

1つ目、小中学生に対する理科教育の現状と理科教育を充実させるための方針、取り組み、考え方についてお伺いいたします。

2つ目、理科教育充実支援取り組みについて。小中学生に対し、より科学に好奇心と夢を持たせ、理科の楽しさ、大切さを理解させて、理数を好きになるように支援する理科教育の支援事業として、地域の科学エキスパート協力、支援のもとに、行政と地域の任意団体が協調して、理科教育の振興に資する取り組みが挙げられると思います。現在、日立市における取り組みの事例でございますが、日立市と日立製作所が連携し、日立グループの科学エキスパート、OBで構成する任意団体がボランティアにて市内の小中学校で実験や授業支援、ものづくり教室等の支援を行い、官民協調による未来を開く児童生徒の育成支援に取り組んでおります。常陸太田市にも日立グループのOBを初め、科学エキスパートのOBが数多くおられると思いますので、これらの方々の

支援をいただきながら、理科教育充実支援を進めていくことが一つの支援策として考えられますが、これらの支援取り組みに対する考え、今後の計画等についてご所見をお伺いいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 富田広美君登壇〕

建設部長（富田広美君） 駅前周辺開発整備に伴うJR利用促進施策についての中で、建設部関係のご質問にお答えいたします。

常陸太田駅周辺の整備充実についてでございます。駅周辺地区につきましては、交通機関の結節点として利便性を向上させ、観光機能の充実を図るなど市の玄関口として整備を進めているところでございます。特に、JR常陸太田駅につきましては、議員ご発言のように市内外から人が集まる交流拠点、市内周遊の出発点であることから、情報発信機能を強化するとともに、すべての人にやさしいユニバーサルデザインを導入した施設整備を進めております。駅舎内には観光案内所、観光情報・行政情報などを提供する情報端末を設置整備いたします。待ち合いスペースは、旧駅舎より広い面積を確保し、空調設備を備え、自然採光を取り入れた快適な空間として整備し、列車の待合室だけではなく、コミュニケーションの場としても展示コーナーとしても利用できる多目的スペースとしております。

また、駅舎西側の約600平方メートルのふれあい広場は、市民の交流、憩いの場、イベントなどの開催できるにぎわいや交流の拠点として整備を進めております。このような整備によりまして、JR利用者の増加が見込めるものと考えてございます。

議長（黒沢義久君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

政策企画部長（江幡治君） 駅前周辺開発整備に伴うJR利用促進施策についての中で、JR沿線駅の整備についてのご質問にお答えをいたします。

まず、河合駅につきましては、現在、駐輪場、待合所、駐車場の整備につきまして検討をしているところでございます。また、谷河原駅につきましては、常陸太田南部幹線道路の整備を進めているところでございますので、この進捗とあわせて整備について検討をしてみたいと考えております。駅の環境美化等につきましては、現在も地元町会等において実施をいただいているところでございます。これらにつきましても、水郡線の利用促進とあわせて、市民や団体等との連携を図りながら、さらに進めてまいりたいというように考えております。また、市情報の掲示につきましても、JR東日本と調整を進めてまいります。

次に、町の活性化に向けての対応策についての中で、町の活力、元気力についてお答えをいたします。

人の交流を促進する道路の整備、郊外型ショッピングセンターの誘致及び農産物直売所の設置等による町の活性化と需要の創出という議員のご提案の施策につきましては、本市の活力、特に観光、消費等における交流人口の増、基幹産業であります農林畜産業の振興、本市の地産地消活動の活性化等における基盤・拠点整備を進めていく上で、重要な施策の1つであると考えますこ

とから、町の元気の創出と市民の利便性等を考慮しつつ、慎重にその必要性等につきまして、関係機関と連携調整を図りながら、総合的に検討してまいることが肝要であるというように考えております。

次に、企業誘致の現状及び今後の対応についてお答えを申し上げます。

企業誘致につきましては、ストップ少子化若者定住戦略の1つと位置づけをしまして、積極的に推進をしているところでございます。議員ご発言のように、市内出身者等に広く情報の提供をお願いしていますほか、市長のトップセールス、専門のホームページの公開、企業へのアンケート調査等の実施等、これまで積極的に誘致活動を行ってまいりました。しかしながら、現在の経済情勢におきまして、誘致活動が困難な状況にありますので、今後とも茨城県開発公社と連携をし、引き続き企業情報の収集、企業への情報提供、さらには常陸太田市のPRにも努めまして、立地企業のフォローアップを行いながら、さらに積極的に誘致を進めてまいる考えでございます。

議長（黒沢義久君） 産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

産業部長（赤須一夫君） JR利用観光来訪者の促進施策についての中の見学案内の充実についてのご質問にお答えいたします。

観光案内につきましては、現在JR常陸太田駅舎内に観光案内所を設置し、施設パンフレット、ガイドマップ等を置いて直接観光客に対して案内をしております。また、今後整備される新たな駅舎につきましても、観光客にとって利用しやすい常陸太田市観光の玄関口として、利便性の高い環境づくりを進めてまいりたいと考えております。観光案内等のネット配信、広報につきましては、観光物産協会のホームページ等を中心に観光情報等の提供を行ってまいります。

次に、観光スポット、ルートの開発についてのご質問にお答えいたします。

来訪者の要望に応えるルートづくりや、駅を出発点としたハイキング等のパンフレットや案内板の設置について検討を進めるとともに、観光関連の施設では、当地を訪れた方々に感動していただけるようなおもてなしの気持ちを大切に環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

続きまして、観光巡回のための交通サービスについてのご質問にお答えいたします。

レンタルサイクルに不要自転車等を利用してはどうかとのことでありますが、自転車の安全性やメンテナンスの問題、さらには無人駅への配置の場合の管理方法や市内各所への再放置の懸念等、もろもろの問題が想定されますので、関係機関を含め研究させていただきたいと考えております。なお、現在はJR常陸太田駅舎内の観光案内所に5台のレンタルサイクルを用意しているところでございます。

以上でございます。

議長（黒沢義久君） 教育長。

〔教育長 中原一博君登壇〕

教育長（中原一博君） 小中学生に対する理科教育の現状と理科教育を充実させるための本市の取り組みの考えについてのご質問にお答えいたします。

資源の少ない日本においては、知的資源を確保し、科学技術立国を目指していかなければなりません。また、このたび改訂のあった新学習指導要領においても、理科を学ぶことの意義や有用性を実感できる機会を持たせ、科学への関心を高めることを重視して、理科教育を充実させることが示されたところでございます。本市におきましても、これからの市づくりを考えたとき、科学に興味や関心を持ち、科学を探究していく児童生徒の育成が求められると考えております。

学校教育における理科教育でございますが、平成19年度から児童生徒に基礎基本を定着させ、興味関心を持たせるために、理科の得意な人材を理科支援員として4つの小学校の理科の授業に配置しております。また、特別講師をほかの13の小学校に派遣しているところでございます。

さらに、県が行う科学大好きスタンプラリーや理科博士教室など、未来の科学者育成プロジェクト事業にも本市の児童生徒は積極的に参加しているところでございます。

また、本市独自には親子自然探索サークル事業や地域において星の観察会などを行い、自然や天体に興味や関心のある児童生徒が参加しており、理科の好きな児童生徒が育ってきているととらえております。

本市における理科教育につきましては、学校教育の授業の一層の充実はもちろんのこと、地域における学習の機会を充実させていくことが大切であるととらえております。

次に、理科教育充実支援の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

本市では、先ほど申し上げましたように、平成5年度から親子自然探索サークル事業を実施しております。この事業では、植物や動物、岩石などの自然観察に教員のOBや理科教員等が支援をして、多くの子と親が意欲的に取り組んで参加しているところでございます。今後は実験やものづくりなどの活動を取り入れた理科の学習に興味、関心のある児童生徒に対して、例えば少年少女科学クラブのようなものを立ち上げ、市民の皆さんのご協力をいただいて学習の機会の提供を進めていく必要があると考えます。今後は指導者の確保や内容等、あるいは経費等を踏まえてその開設について検討してまいります。

また、学校教育における理科教育への支援につきましては、指導者の主体的支援体制のあり方や、学校の理科の学習において、どのような形での支援が有効かなどについても関係者や学校と協議を行いながら検討してまいりたいと考えております。

議長（黒沢義久君） 3番鈴木二郎君。

〔3番 鈴木二郎君登壇〕

3番（鈴木二郎君） ただいまご答弁ありがとうございました。2回目の質問と要望をさせていただきます。

まず最初に、駅前周辺開発整備に伴うJR利用促進施策についてであります。常陸太田駅周辺の整備充実につきましてはいろいろな取り組みを計画され、理解いたしました。ぜひともこれらについて実現して、多くの来客者に来ていただくように整備充実を図っていただきたいというふうに思います。

2番目のJR沿線駅の整備充実でございますが、これは現在鋭意進めておると、整備中ということでございますので、これについても理解をいたしました。

次に、3点目のJRを利用した観光来訪者の促進における観光スポット、ルート開発につきまして再度ご質問をさせていただきます。この開発の事例といたしまして、現在河合駅を例にとりますと、河合駅からおりて西方をいきますと、600メートルのところ、山田川近くに親鸞聖人ゆかりの枕石寺がございます。そして、さらに国道349号と久慈川幸久橋交差点を交差する堤防のところ、防人の碑、さらに、西方1キロのところ、栗原の湖畔荘釣り堀、さらに北西に行きますと1.4キロのところ、ご存じのとおり梵天山、百穴古墳、前方後円古墳があり、豊かな史跡や環境スポットが数多くございます。これらをきちんと整備し開発していくことが是非必要と考えます。このように、各駅にもう一度そういう歴史の遺産、あるいは観光地をもう一回見直していただいて、そういう観光スポットをきちんと開発して、その道路の整備、あるいは美化等を図っていただいて、それで観光客に来ていただくというような対応が必要なんじゃないかと。これは具体的な取り組みなんですけど、そういうことについて再度見解をいただきたいというふうに思っております。

それから、2点目といたしまして、水郡線の利用促進という観点から第5次総合計画の実施計画における水郡線利用促進会議というのがございます。この取り組み状況、そして今回のJRの整備充実というところの対応施策との関連調整、これはどのように進めていくのかお伺いをいたします。

次に、町の活性化に向けての対応施策につきましては、道路の整備、あるいはショッピングセンター、これらにつきましては、これから今後ともいろいろと総合的に必要性を見ながら検討していくということでございますので、ぜひ、他市町村の例を参考に検討を進めていただきたいというふうに思います。

最後に、企業誘致による雇用の創出につきましては理解をいたしました。今後とも関係機関とも連携して、大きな効果がございますので、ぜひとも誘致に向けて取り組んでいていただきたいというふうに考えます。

それから、最後の小中学生の理科教育支援につきましては、いろいろと理科教育の充実に向けて取り組んでおられるということで理解をいたしました。それから、2点目でございます理科支援授業につきましては、いろいろな課題があると思いますが、これらにつきましてもその課題をクリアしながら、地元のいろいろな関係者の協力を得ながら、ぜひとも実現に向けて取り組んでいていただきたいというふうに考えているところでございます。

以上で2回目の質問と要望を申し上げ、私の質問を終わります。ありがとうございました。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

産業部長（赤須一夫君） 2回目のご質問にお答えいたします。

観光推進のあり方についてのご質問でございますけれども、観光スポットを見直し、マップ等の整備を行うなど、来訪者にわかりやすいPRを実行し、来訪者に対してのおもてなしの心を大事にして、市の観光行政を推進してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

議長（黒沢義久君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

政策企画部長（江幡治君） 再度のご質問にお答えを申し上げます。

J Rの利用促進の水郡線利用促進会議との河合駅整備の整合性についてはというご質問でございますが、これから市民を交えました水郡線の利用促進会議を設立をしたいということで、現在検討を進めております。そういった中で、この河合駅の整備もあわせて検討してまいりたいというように考えてございます。

以上でございます。